

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成28年10月6日(2016.10.6)

【公表番号】特表2015-526175(P2015-526175A)
 【公表日】平成27年9月10日(2015.9.10)
 【年通号数】公開・登録公報2015-057
 【出願番号】特願2015-527064(P2015-527064)
 【国際特許分類】

A 6 1 M 25/092 (2006.01)

A 6 1 B 17/43 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 25/092 5 0 0

A 6 1 M 25/092 5 1 0

A 6 1 M 37/00 5 8 0

【手続補正書】

【提出日】平成28年8月15日(2016.8.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

少なくとも 1 つの溝 (1 0 0 2) を有するように構成された スタイレット (1 1 0 4) であって、前記溝が スタイレット の横断面の一部のみに配置された切欠部である、スタイレット と、

前記 スタイレット の外に位置され、スタイレット を前記少なくとも 1 つの溝のところで曲げるように構成された 引張りワイヤ (1 1 0 2) とを具備し、

前記 引張りワイヤ は、前記少なくとも 1 つの溝の先端方向に延び、レーザー溶接とスタイレットの周りに配置された覆い層との少なくとも一方により前記スタイレットの外面に接続されており、前記覆い層は、引張りワイヤが曲げのために引かれたときに、スタイレットの基端部近くで引張りワイヤを保持する、操作可能な偏向器 (9 0 6)。

【請求項 2】

前記 スタイレット の基端部に接続され、カテーテル (9 0 8) に着脱可能に接続されるハンドル (9 0 2) を更に具備する請求項 1 に記載の操作可能な 偏向器。

【請求項 3】

カテーテル (9 0 8) を更に具備し、前記 スタイレット が、前記 引張りワイヤ による スタイレットの曲げがカテーテルの曲げを生じさせるように、カテーテルの管内に着脱可能に配置されている、請求項 1 に記載の操作可能な偏向器。

【請求項 4】

更にハンドル (9 0 2) を具備し、このハンドルには、前記 引張りワイヤ に接続されたレバー (9 0 4) が配置され、前記レバーの動きにより、前記 引張りワイヤ は、引っ張られて前記 スタイレット が曲げられる請求項 1 に記載の操作可能な 偏向器。

【請求項 5】

前記 覆い層 は、前記 スタイレット 外面で熱収縮されている請求項 1 に記載の操作可能な 偏向器。

【請求項 6】

前記レバーは、離脱可能にロック可能な複数の位置 (1 3 0 2) を有している請求項 4 に

記載の操作可能な偏向器。

【請求項 7】

離脱可能にロック可能な前記複数の位置は、スタイレットの曲げの既知の増分に対応している請求項 6 に記載の操作可能な偏向器。

【請求項 8】

複数の溝を有している請求項 1 に記載の操作可能な偏向器。

【請求項 9】

前記複数の溝は、各々、各溝の曲げを個々に制御するように、単一の引張りワイヤに対応している請求項 8 に記載の操作可能な偏向器。

【請求項 10】

複数の管を有し、前記スタイレットが前記複数の管の 1 つの中に着脱可能に配置されている請求項 1 に記載の操作可能な偏向器。

【請求項 11】

前記スタイレットと引張りワイヤとは、共に、ほぼ円形の横断面を有している請求項 1 に記載の操作可能な偏向器。

【請求項 12】

前記スタイレットは、塑性変形可能である請求項 1 に記載の操作可能な偏向器。

【請求項 13】

前記溝は、弾性的に変形可能である請求項 1 に記載の操作可能な偏向器。

【請求項 14】

サンプルを採取するように前記カテーテルの先端部に配置された尖った先端部(204)を更に具備している請求項 3 に記載の操作可能な偏向器。

【請求項 15】

前記スタイレットの溝は、スタイレットの長軸から 90°まで、曲げ可能である請求項 1 に記載の操作可能な偏向器。

【請求項 16】

複数のカテーテルと、

前記複数のカテーテルのいずれかに対応するように構成された請求項 1 に記載された操作可能な偏向器(906)とを具備する操作可能な偏向器のキット。

【請求項 17】

前記複数のカテーテルの少なくとも 1 つは、CVS、IVF、IUI 処置をするように構成されている請求項 16 に記載の操作可能な偏向器のキット。

【請求項 18】

スタイレット(1102)とカテーテル(908)とを有する操作可能な偏向器(906)を挿入することと、

目的領域に前記操作可能な偏向器を案内することであって、前記案内は、スタイレットに配置された溝(1002)の所でスタイレットを少なくとも 1 度変更させることを含む、案内することと、

前記操作可能な偏向器の一部を少なくとも除去することとを具備する、操作可能な偏向器を使用する方法。

【請求項 19】

前記挿入することと、案内することとを除去することとの少なくとも 1 つのために、医療画像化を使用することを更に具備する請求項 18 に記載の方法。

【請求項 20】

前記除去することは、カテーテルをその場に残して、前記スタイレットを除去することを含んでいる請求項 18 に記載の方法。

【請求項 21】

目的領域からサンプルを採取するために、前記カテーテルに注射器を装着することを更に具備する請求項 20 に記載の方法。

【請求項 22】

目的領域に精液と受精卵との少なくとも一方を付着させることを更に具備する請求項20に記載の方法。

【請求項 23】

目的領域からサンプルを採取するように尖った先端部(204)を使用することを更に具備する請求項18に記載の方法。

【請求項 24】

前記目的領域は、絨毛膜絨毛である請求項23に記載の方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0094

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0094】

この明細書に記載されている全ての公開公報、特許公報、出願が、これら公開公報、特許公報、出願の各々が参照としてここに組み込まれることを意図としているのであれば、同じ程度に参照としてこの明細書に組み込まれる。更に、この出願でのいかなる引例の参照もしくは識別は、本願発明に対する従来技術として利用され得る。項の表題が使用されている範囲において、前記表題は、必要な限定としての構成ではない。

以下に、出願当初の特許請求の範囲を付記として記載する。

[付記 1]

少なくとも1つの溝を有するように構成された偏向器であって、前記溝が偏向器の横断面の一部を横切るように配置された切欠部である、偏向器と、

前記偏向器を前記溝のところで曲げるように構成され、溝の先端側で偏向器に接続された引張りワイヤとを具備する操作可能なカテーテル装置。

[付記 2]

前記偏向器の基端部に接続され、カテーテルに着脱可能に接続されるハンドルを更に具備する付記1の操作可能なカテーテル装置。

[付記 3]

カテーテルを更に具備し、前記偏向器が、前記引張りワイヤによる偏向器の曲げがカテーテルの曲げを生じさせるように、カテーテルの管内に着脱可能に配置されている、付記1の操作可能なカテーテル装置。

[付記 4]

更にハンドルを具備し、このハンドルには、前記引張りワイヤに接続されたレバーが配置され、前記レバーの動きにより、前記引張りワイヤは、引っ張られて前記偏向器が曲げられる付記1の操作可能なカテーテル装置。

[付記 5]

前記引張りワイヤは、レーザー溶接と被覆との少なくとも一方により前記偏向器に接続されている付記1の操作可能なカテーテル装置。

[付記 6]

前記偏向器と引張りワイヤとの周りの覆い層を更に具備する付記1の操作可能なカテーテル装置。

[付記 7]

前記覆い層は、前記偏向器外面で熱収縮されている付記6の操作可能なカテーテル装置。

[付記 8]

前記レバーは、離脱可能にロック可能な複数の位置を有している付記4の操作可能なカテーテル装置。

[付記 9]

離脱可能にロック可能な前記複数の位置は、偏向器の曲げの既知の増分に対応している付記8の操作可能なカテーテル装置。

[付記 1 0]

複数の溝を有している付記 1 の操作可能なカテーテル装置。

[付記 1 1]

前記複数の溝は、各々、各溝の曲げを個々に制御するように、単一の引張りワイヤに対応している付記 1 0 の操作可能なカテーテル装置。

[付記 1 2]

複数の管を有し、前記偏向器が前記複数の管の 1 つの中に着脱可能に配置されている付記 1 の操作可能なカテーテル装置。

[付記 1 3]

前記偏向器と引張りワイヤとは、共に、ほぼ円形の横断面を有している付記 1 の操作可能なカテーテル装置。

[付記 1 4]

前記覆い層は、曲げの間、前記偏向器に隣接するように、前記引張りワイヤを維持する付記 6 の操作可能なカテーテル装置。

[付記 1 5]

前記偏向器は、塑性変形可能である付記 1 の操作可能なカテーテル装置。

[付記 1 6]

前記溝は、弾性的に変形可能である付記 1 の操作可能なカテーテル装置。

[付記 1 7]

サンプルを採取するように前記カテーテルの先端部に配置された尖った先端部を更に具備している付記 1 の操作可能なカテーテル装置。

[付記 1 8]

前記偏向器の溝は、偏向器の長軸から 90°まで、曲げ可能である付記 1 の操作可能なカテーテル装置。

[付記 1 9]

複数のカテーテルと、
前記複数のカテーテルのいずれかに対応するように構成された偏向器とを具備する操作可能なカテーテル装置のキット。

[付記 2 0]

前記複数のカテーテルの少なくとも 1 つは、CVS、IVF、IUI 処置をするように構成されている付記 1 9 の操作可能なカテーテル装置のキット。

[付記 2 1]

偏向器とカテーテルとを有する操作可能なカテーテル装置を挿入することと、
目的領域に前記操作可能なカテーテル装置を案内することであって、前記案内は、偏向器に配置された溝の所で偏向器を少なくとも 1 度変更させることを含む、案内することと

と、
前記操作可能なカテーテルの一部を少なくとも除去することとを具備する、操作可能なカテーテル装置を使用する方法。

[付記 2 2]

前記挿入することと、案内することとを除去することとの少なくとも 1 つのために、医療画像化を使用することを更に具備する付記 2 1 の方法。

[付記 2 3]

前記除去することは、カテーテルをその場に残して、前記カテーテルを除去することを含んでいる付記 2 1 の方法。

[付記 2 4]

目的領域からサンプルを採取するために、前記カテーテルに注射器を装着することを更に具備する付記 2 3 の方法。

[付記 2 5]

目的領域に精液と受精卵との少なくとも一方を付着させることを更に具備する付記 2 3 の方法。

[付記 2 6]

目的領域からサンプルを採取するように尖った先端部を使用することを更に具備する付記 2 1 の方法。

[付記 2 7]

前記目的領域は、絨毛膜絨毛である付記 2 6 の方法。